

会員の声

干支のネズミ年を迎えて

高橋 一心 (鎌谷)

天皇陛下の世代交代で新しく令和と改められ、厳かな式典をもとに美しい幕開けとなりました。反面異常気象で関東では、台風の襲来で大変な被害が出てお気の毒な事です。心からお見舞いを申し上げます。昨年の夏は真夏の気温が40度近くになり、熱中症で倒れる人もよく聞く事でした。シルバーの仕事も草刈り作業が多く、気をつけなければならないものです。自分も80歳代に入って年々力がなくなり、今までのように頑張りが出来なく、体力の限界を感じるようになって来ました。でも色々な人との出会いがあって生きがいを感じ働く事による喜びを味わっています。これからも健康で生きがいをもって頑張ります。どうかよろしく願いをいたします。

元気で働ける事の喜び

谷口 かず代 (グリーンハイツ)

シルバー人材センターに入会してからもう5年になります。

京丹波町で生まれ、高校2年生の時に、母の仕事の都合で、京都市内に移り住む事になり63歳で再び京丹波町に戻って来ました。

最初は、グリーンランドみずほでお世話になり、現在は味夢の里でトイレ掃除に頑張っています。3年前、圧迫骨折で、入退院を繰り返して、車椅子生活になるのではないかと心配していたにもかかわらず、すっかり元気になり強靱な体やなあと驚かれています。

働く仲間にも恵まれ、現在元気で楽しく働いております。これからも体を大切にして、仕事を頑張りお友達とグラウンド・ゴルフやお食事会などで楽しい人生を過ごせたらと思います。

今後共よろしく願い致します。

会員の皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

団塊の世代頑張りましょう

榎本 藤雄 (下粟野)

団塊の世代とは、戦後の第一次ベビーブーム期(1947年~1949年)に生まれた世代のことです。

私は1948年組です。

この3年間に生まれた人口は800万人に上り、他の世代に比べ突出して人口が多くなっています。

同年代の人口が多いため、下粟野小学校は1クラスでしたが、和知中学校に入学すると1クラス40人以上が5クラスもあり、ビックリしたのと常に競争にさらされてきました。

今ささやかれているのは、2025年問題です。2025年には団塊の世代が75歳を超え、5人に1人が後期高齢者という超高齢化社会になると言われています。支える側から医療や介護を受ける側に回ることになり、社会保障制度の破綻が懸念されています。

このような中で、家族からは「相続後のことを決めておいてほしい」などというニーズが強くなってきています。

そこで私は「終活」をお勧めし、実践しています。人生の最期のときを意識しながら、万が一のために家族に伝えておくべきことを整理しておくことです。

皆さん、元気で「終活」をしましょう。



ボランティア作業 (長老苑)